日本温泉地域学会の活動と温泉教育

城西国際大学客員教授

山村順次

日本温泉地域学会設立の目的

- 日本の観光地の発展にとって、温泉と温泉地の存在は欠かせない。温泉を資源として活かすことで温泉地が成立し、地域社会の発展や国民の福祉に寄与するのであるが、高度経済成長期以後、観光業者による歓楽地への傾斜が進み、心身を癒す場としての保養温泉地は減少の一途をたどった。
- 温泉資源としての温泉そのものの地学・化学的研究や応用としての医学・薬学・工学的研究など、自然科学的研究は進んでいるが、工学分野以外では温泉地のあり方についての本格的な取組みは課題があるといえよう。一方、人文・社会科学的研究は、さらに遅れをとっている。
- 温泉を利用している旅館経営者などは、その適正利用について十分に配慮しているとはいえない現状があり 、行政や学会の指導体制も整備されていない状況である。

そこで、

温泉地を持続可能な地域として確立するためには、温泉と温泉地の自然・人文・社会科学の総合的視点からの研究が不可欠であり、その成果を温泉地域住民と共有して、出来る事から実行に移す必要があり、本学会設立の目的もそこにある。

日本温泉地域学会の設立

内容

研究者のみならず、広く学会の設立目的に賛同する方を会員とするために会費の低廉を図る。会員の前向きな姿勢の元に、学会の事業を幅広く実践する。

全国各地の温泉地を会場に年2回の2日間の研究発表会を実施し、初日午後の視察会を踏まえ、翌日は研究発表と会場温泉地に関するシンポジウムを行う。

その成果を広い視野から論文･研究ノート（査読付き）にまとめ、温泉地情報･書評などや温泉地に関する内外の多様な報告も学会誌に掲載する。

時機を見て、温泉と温泉地の総合的な出版物を刊行する。

発足

2003（平成15）年5月11日、草津温泉ホテルヴィレッジで創立総会･研究発表大会を開催した。

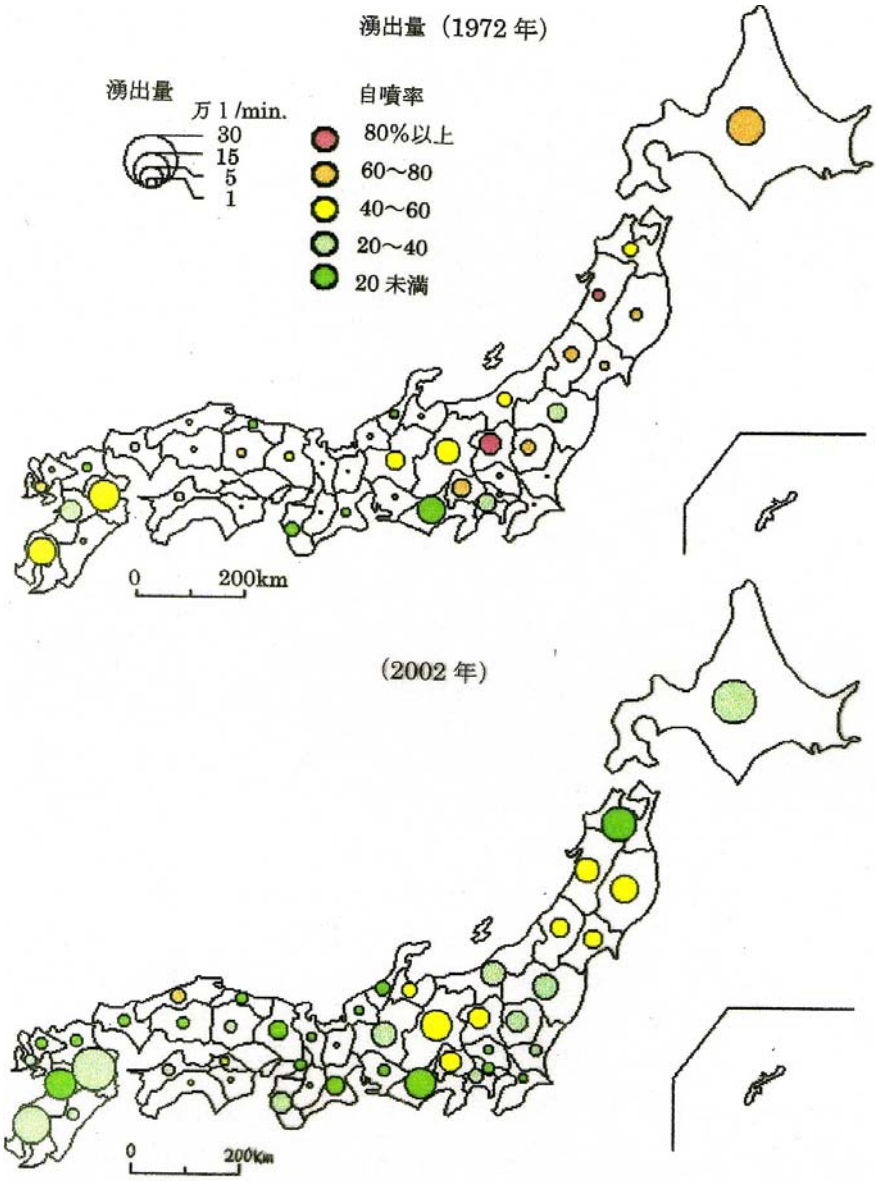
会員

設立当初の会員は145名、2008年3月では265名（一般会員221、学生11、賛助33名）

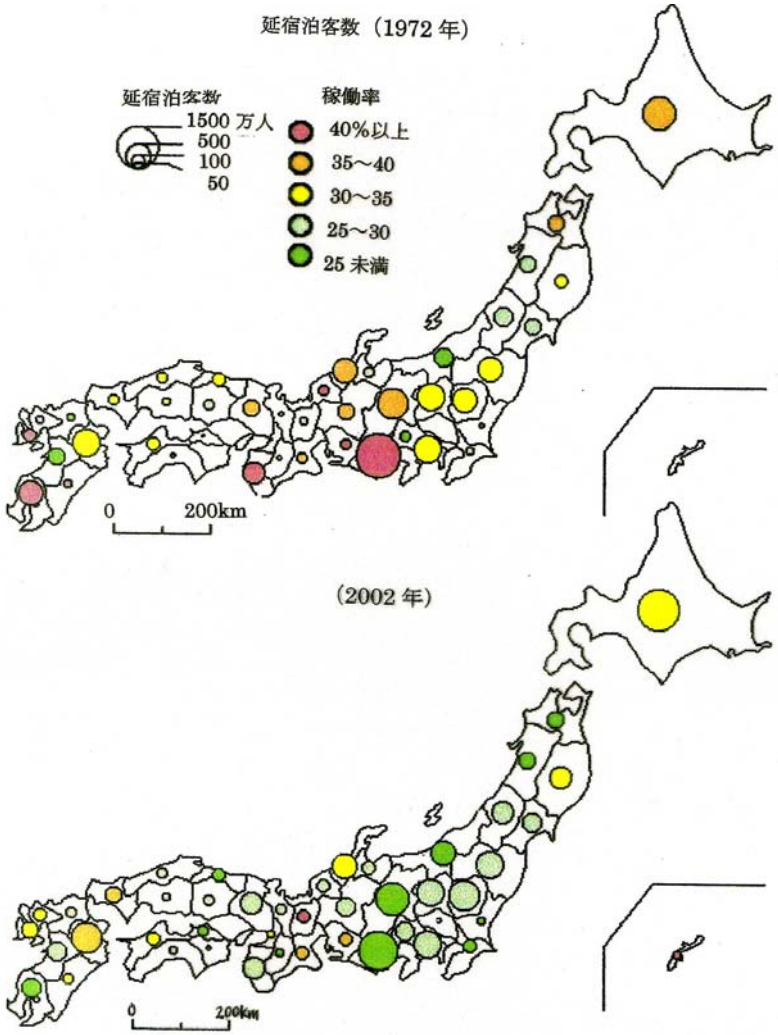
全国の温泉資源と宿泊経営の変化（1972･1987･2002年）

年次 指標	1972年	1987年	2002年	2002/ 1972
温泉地数	1,845	2,189	3,102	1.7
源泉総数	16,308	21,095	27,043	1.7
利用源泉率（%）	78	70	68	
高温泉率（42℃～）(%)	58	52	49	
温泉湧出量（万ℓ/m.）	133	207	267	2.0
自噴率（%）	47	39	30	
宿泊施設数	13,508	15,383	15,389	1.1
宿泊収容定員(万人)	88	112	138	1.6
宿泊客数(万人)	11,792	12,551	13,794	1.2
稼働率(%)	37	31	27	
公衆浴場数	1,749	2,884	6,738	3.9

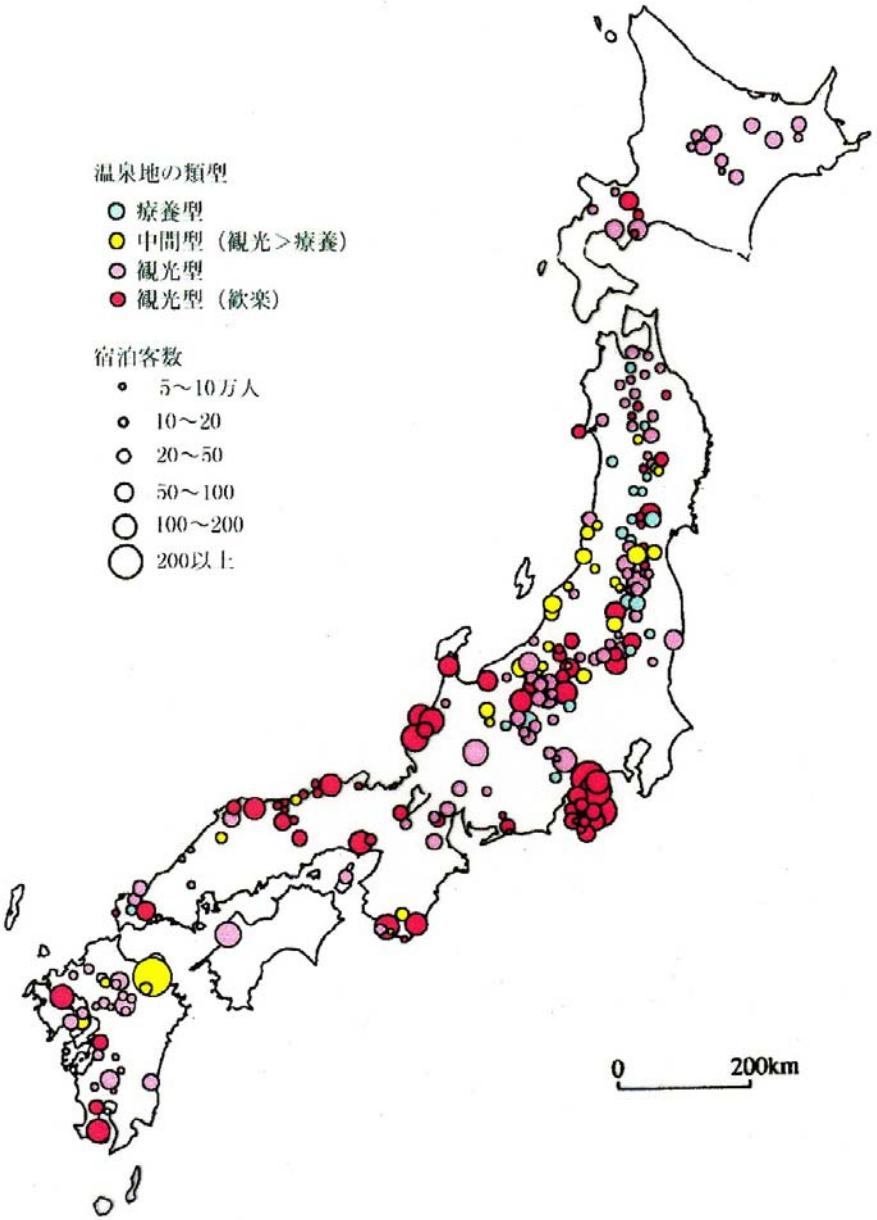
注）環境省の資料により作成。稼働率は宿泊客数/収容定員×365で算出。



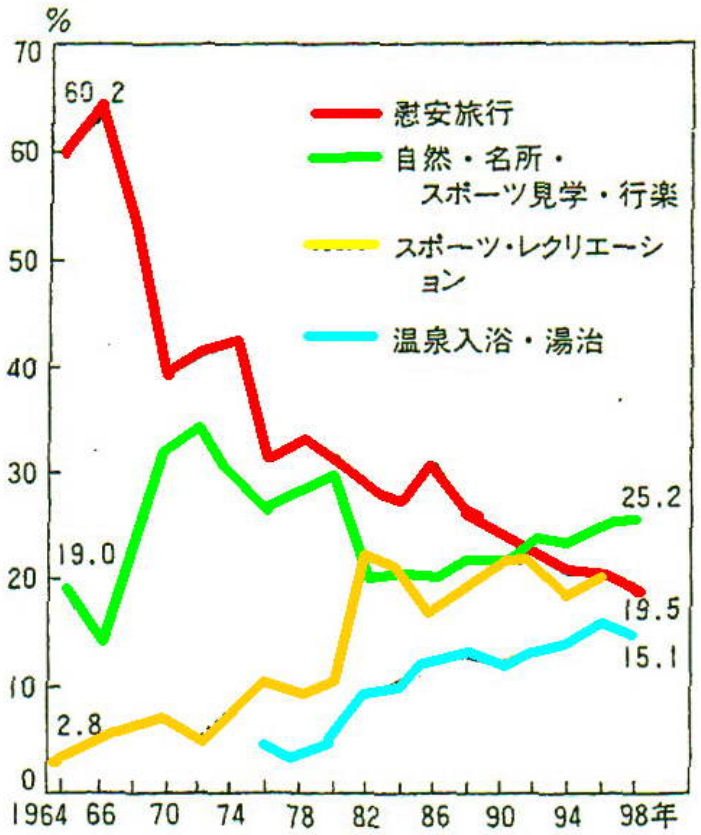
都道府県別湧出量・自噴率の変化（１９７２・２００２年）



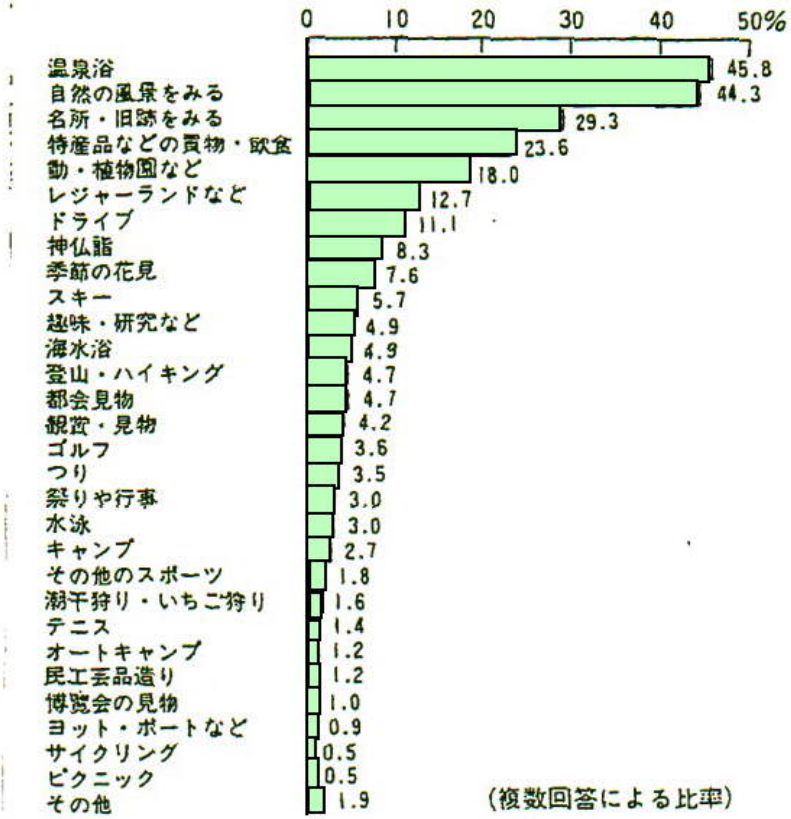
都道府県別宿泊客数・稼働率の変化（１９７２・２００２年）



日本における温泉地の分布（１９７７年）



国民の宿泊観光レクリエーションの目的変化
1964～1998年）



宿泊観光旅行先での行動（1998年）

（日本観光協会）

温泉旅行の実態（2003年）

- 温泉地宿泊の有無：有り 85%
- 宿泊日数：　1泊 54%　2泊36% 3泊~10%
- 目的：　　観光 45　保養 35　湯治　8
- 旅行形態：家族 66　友人 24
- 旅行人数：2人 45　3~4　36
- 交通手段：鉄道 41　自動車 40
- 宿泊費：1~1.5万　44 1．5～2 万 21　～1万 20

（注）日本温泉協会の資料による。

最も印象の良かった温泉地と行きたい温泉地（1995・2002年）

印象年次	最も良かった温泉地（2000年）					最も行きたい温泉地（2000年）		最も行きたい温泉地（1995年）	
順位	温泉地	回答数	自然環境	温泉情緒	温泉資源	温泉地	回答数	温泉地	回答数
1	草津	193	40.4%	53.4%	67.9%	草津	214	下呂	172
2	箱根温泉郷	82	59.8	34.1	58.5	由布院	124	登別	152
3	下呂	71	42.3	43.7	60.6	別府温泉郷	108	別府温泉郷	120
4	登別	58	62.1	37.9	69.0	登別	100	草津	106
5	別府温泉郷	57	35.1	50.9	63.2	箱根温泉郷	95	白骨	86
6	乳頭温泉郷	54	85.2	38.9	75.9	黒川	95	由布院	65
7	白骨	54	81.5	53.7	68.5	乳頭温泉郷	94	水上温泉郷	56
8	四万	42	64.3	45.2	66.7	白骨	82	伊香保	50
9	那須温泉郷	39	71.8	33.3	56.4	四万	75	乳頭温泉郷	47
10	黒川	36	58.3	55.6	66.7	道後	72	道後	46
11	由布院	35	60.0	51.4	48.6	伊東	69	奥飛騨温泉郷	45

注)日本温泉協会資料により作成。2000年：布山裕一　1995年：山村順次　　%は複数回答

国民保養温泉地宿泊客の実態（2004年）

サンプル		宿泊目的				滞在数					リピート			
	1167	療養	保養	観光	その他	日帰り	1泊	2泊	3～5泊	6泊以上	1回	2回	3～5回	6回以上
20代 ≧	13%	4%	35	56	5	18%	62	16	3	1	59%	18	10	13
30代	16	8	37	50	5	13	61	18	6	2	44	22	16	18
40代	13	9	44	41	6	14	59	19	5	3	44	12	16	28
50代	20	15	52	28	5	12	54	17	13	4	34	14	22	30
60代	21	28	50	20	12	10	31	26	20	13	27	12	18	43
70代	13	40	53	4	3	10	17	18	27	28	13	7	20	60
80代 ≦	4	37	58	5	0	0	10	15	30	45	6	13	4	77
計	100%	19	47	30	4	12	45	19	14	10	35	14	17	34

注）環境省の資料により作成。赤数字は30%以上。

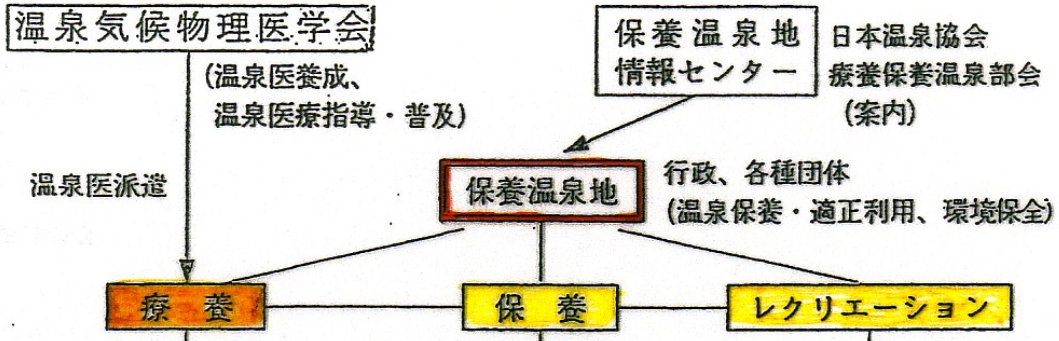
国民保養温泉地宿泊客の評価と療養目的客の疾病（2004年）

評価 指標	大変良い	良い	普通	その他
医療効果	44%	33	22	0
ストレス解消	62	27	11	0
料理	42	29	26	3
温泉資源	74	19	7	0
温泉情緒	46	31	21	1
自然環境	62	25	13	0
温泉地の施設	35	40	23	2
宿泊施設	37	34	27	2

腰痛など	60.9%
神経系	12.3
糖尿病	11.6
リハビリ	10.9
リウマチ	10.5
外科一般	8.0
循環系	6.6
皮膚病	6.3
消化器系	5.9
内科一般	2.8
アレルギー	2.1
その他	6.3

注）環境省の資料により作成。疾病は複数回答。
赤数字は40%以上。

保養温泉地の開発システム



温泉施設	温泉治療館(クアミッテルハウス) 温泉入浴館(バーデハウス)	温泉保養館(クアハウス) 温泉健康館 (エステなども)	共同浴場(外湯) 温泉会館(ビジターセンター)
宿泊施設	自炊棟 賄付保養棟	保養宿泊施設 ホテル、旅館、ペンション、保養所、民宿など	貸別荘 キャンプ場
運動施設	トリムロード リハビリテーション施設	保養公園 遊歩道 自然研究路	テニス場、サイクリング道 ゴルフ場 スキー場 スケート場など
文化教養施設など		美術館、博物館、音楽会、各種イベント 自然、歴史、地理などの地域巡りなど	

(注) 筆者作成。木暮博士の資料を一部参照。各種施設は温泉地の性格の程度によって混在する。

新世紀日本温泉地番付

東之方			西之方		
横綱	草津	(群馬) 三十四 (十)	横綱	由布院	(大分) 三十三 (十)
大関	白骨	(長野) 二十八 (六)	大関	別府	(大分) 三十一 (八)
関脇	登別	(北海道) 二十七 (八)	関脇	黒川	(熊本) 二十七 (六)
関脇	箱根	(神奈川) 二十五 (六)	関脇	指宿	(鹿児島) 二十六 (四)
小結	玉川	(秋田) 二十五 (二)	小結	城崎	(兵庫) 二十五 (八)
小結	乳頭	(秋田) 二十四 (六)	小結	奥飛騨	(岐阜) 二十五 (四)
蒙御免					
前頭一	那須	(栃木) 二十二 (二)	前頭一	道後	(愛媛) 二十〇 (六)
前頭二	酸ヶ湯	(青森) 二十一 (四)	前頭二	勝浦	(千葉) 二十二 (四)
前頭三	秋保	(宮城) 二十 (四)	前頭三	雲仙	(長崎) 二十二 (二)
前頭四	蔵王	(山形) 二十 (二)	前頭四	下呂	(岐阜) 二十一 (四)
前頭五	伊東	(静岡) 二十 (〇)	前頭五	和倉	(石川) 二十 (八)
前頭六	銀山	(山形) 十九 (四)	前頭六	白浜	(和歌山) 二十 (四)
前頭七	伊香保	(群馬) 十九 (二)	前頭七	有馬	(兵庫) 十九 (四)
前頭八	奥鬼怒	(栃木) 十九 (〇)	前頭八	三朝	(鳥取) 十八 (二)
前頭九	法師	(群馬) 十八 (二)	前頭九	大牧	(富山) 十八 (二)
前頭十	四万	(群馬) 十八 (二)	前頭十	内牧	(熊本) 十七 (〇)
前頭十一	野沢	(長野) 十七 (二)	前頭十一	山中	(石川) 十六 (二)
前頭十二	鳴子	(宮城) 十六 (二)	前頭十二	宇奈月	(富山) 十六 (二)
前頭十三	鬼怒川	(栃木) 十六 (二)	前頭十三	霧島	(鹿児島) 十六 (〇)
前頭十四	別所	(長野) 十五 (二)	前頭十四	皆生	(鳥取) 十六 (〇)

行司・勧進元　山村順次

表４　平成の温泉地番付　2000（平成12）年現在。

（注）山村順次作成。

温泉地を東日本と西日本に分けて、東之方と西之方に各20位までを示している。各温泉地の点数は、35点が最高点であり、そのうち、（　）内の点数はアンケート調査の回答者が高く評価した温泉地を点数化したもので、10点が最高点である。残り25点は、①温泉湧出量、②宿泊施設収容人員当たり温泉湧出量、③温泉施設のユニークさ、④温泉地の自然環境、⑤温泉情緒の５項目について、筆者が各５点の評価をしたものである。

温泉地のあり方

温泉地志向の3要素

①温泉資源
②温泉情緒
③温泉地の自然環境

個性的温泉地域づくり

①温泉資源の保護と温泉地の環境保全
②温泉地の歴史･文化の掘り起こし
③温泉地の情報発信･正確な地図作成と
　ガイドシステムの確立
④行政･業界･住民･研究者の一体感の醸成
⑤地域住民のホスピタリティの醸成

日本温泉地域学会会員の構成（2008年）

職種＼地方	北海道	東北	関東	中部	近畿	中四国	九州	計	%
大学教員		6	15	17	5	3	8	44	17
研究員など	1	2	11	2	1	1	2	20	8
温泉旅館業		29	15	13		4	9	70	26
温泉観光会社			6	4	2	1	6	19	7
ライター・マスコミ		1	11	2				14	5
行政関係者		3	8	4			3	18	7
温泉観光団体		5	12	7		1	8	33	12
一般市民			26	5	3	1		35	13
学生	1	2	5	1			3	12	5
計	2	48	109	45	11	11	39	265	100
%	1	18	41	17	4	4	15		100

研究発表会に先立つ視察会（第1回～第10回大会）

- 本学会の一大特色をなす視察会は、温泉地研究で重要な野外観察と聞き取りによる実地研修の場を与えてくれる。開催温泉地の地域的課題を明らかにし、翌日のシンポジウムにつなげる上からも大きな意義を有するので、受け入れ温泉地に案内していただいている。
- 草津温泉：雨と霧の中、町役場の支援のもと温泉施設と草津白根山の視察
- 東鳴子温泉：湯治場の実態把握と秋の鳴子峡の散策。
- 由布院温泉：由布院温泉の田園景観や湯平温泉の石畳の情緒を味わう。長湯温泉の視察を加え、御前湯・ラムネ温泉に入浴 。
- 強羅温泉：強羅公園散策の後、ロープウエーで大涌谷を俯瞰し、黒卵を味わい、地熱現象を間近かに観察した。姥子では貴重な源泉かけ流しの湯に入浴。
- 昼神温泉：新興温泉地でありながら落ち着いた景観と年中無休の朝市がユニークである。広域観光の視点から妻籠宿を視察。
- 土湯温泉：源泉地で温泉集中管理を見学し、新野地温泉の野趣豊かな露天風呂に入浴。
- 伊豆長岡温泉：温泉集中管理による安定給湯のもと、健康温泉地への指向を強調。韮山反射炉の歴史遺産の活用とボランティアガイドの導入、健康温泉浴などを体験。
- 霧島温泉郷：妙見温泉を中心にし、鹿児島大学温泉医療施設、湯治場や観光施設を視察。
- 蔵王温泉：サクランボ狩りをした後、渓谷の露天風呂を体験し、温泉場の町並景観を観察。
- 山田温泉：一茶の資料館を見学した後、近くに果樹園で長野リンゴを味わい、温泉施設のyu遊ランドを見学。さらに生ごみ処理による地力維持施設を見学。

研究発表会に先立つ視察会（第11回～第18回大会）

- 別府温泉郷：観海寺温泉の地熱発電施設、明礬温泉の湯の花小屋、鉄輪温泉の花卉栽培温室・入湯貸間・蒸し湯・ひょうたん温泉の枝条架による温度低減施設、亀川温泉の海浜砂湯など、多様な温泉利用の実状を見学。
- 鴨川温泉：日蓮上人ゆかりの誕生寺、和風露天風呂の鴨川館、温泉搬送の源泉地、ユニークな硫黄泉の1軒宿の粟斗温泉などを見学。
- 山中温泉：山中漆器会館を見学の後、総湯「菊の湯」・ゆげ街町並み保存地区・大聖寺川のこおろぎ橋・鶴仙渓・芭蕉堂・医王寺などを徒歩で視察。
- 那須温泉郷：殺生石で知られる賽の河原をはじめ、那須温泉神社では神主さんに説明をいただき、鹿の湯の見学後、秘湯大丸温泉で渓流の湯に入浴。
- 熱海温泉郷：伊豆山神社・走り湯源泉・熱海大湯間歇泉跡・湯前神社の見学、歴史資料の多い古屋旅館の見学、温泉施設「マリンスパあたみ」の視察。
- 白浜温泉：見晴台で白浜温泉街を展望した後、民俗温泉資料館や三段壁・千畳敷の海岸の景勝地を巡り、歴史のある崎の湯で入浴。さらに地場の物産販売センターのとれとれ市場に立ち寄る。
- 湯河原温泉：ボランティアガイドの案内で、まず奥湯河原温泉をたずね、源泉や不動滝を見学、次いで湯河原温泉の万葉公園・温泉街・和風旅館などを巡り、最後に観光会館で湯河原の歴史と現在を学ぶ。
- 浅虫温泉：青森駅集合の後、ボランティアガイドによる「ねぶた会館」「青函連絡船跡地」などを巡り、その後浅虫温泉へ移動。集中管理施設と棟方志功ゆかりの温泉宿の見学。なお、この大会は東日本大災害復興支援大会とし、研究発表会終了後、東北温泉での入浴、蔦温泉宿泊、東鳴子温泉宿泊を加え、各地で大震災に関わる懇談をした。

温泉地域学会についての会員の意見

- 在野のジャーナリスト・一温泉研究家にとって、先行する温泉医学や地学・工学分野の学会では収まりきれない温泉の歴史・文化史・温泉地史など人文社会分野を共同で研究する学会があればと言う希望を抱いていた。温泉と温泉地に関わり、多様な分野の方々が集い、蓄積を共有し、従来の学会にありがちな研究者の独占、自己満足に委ねるのではなく、温泉地域に成果を還元し寄与する基本姿勢をこれからも貫いていければと願っている。
- 日本では高齢社会・福祉社会・男女雇用均等社会・週休2日制社会の到来にともい，観光地では老若男女の多様な客層の心身の癒しと健康づくりに対応すべく，滞在型観光地の形成が重要になってきた。宿泊施設・保養施設の整備と経営の実態、温泉地の景観や環境の保全の詳細な研究が求められる。
- 旅人として湯浴するだけでなく、“温泉地づくり”を後半生の生きがいとする一般市民であるが、自由な議論が活発に行われ、これまでとても充実し、楽しく学ぶことができた。
- この学会は湯だけの温泉地や既存の学会を克服するために設立されたと信じており、従来の学会の成果は社会とか地域に還元されることは少なかったと思う。
- 温泉地は比較的均質であるにもかかわらず、地域づくりでは成功したところとそうでないところがある。その違いを優れたリーダーがいたからというのではなく、潜在的社会構造といった一般化可能な科学的検証によって説明することが大切であり、それをより良い温泉地域社会の形成に活かすことができる。
- 本学会は、温泉地についての総合的研究と温泉地域社会の発展を目指して設立され、研究発表や学会誌には地域の特性、振興策、科学的分析、歴史、文化などのオリジナルな記事が掲載され、興味深い。
- 東北の湯治宿を経営する1会員であるが、学会において湯治文化を伝えたい、大会開催地または近在の湯治宿を訪問したい、会員の和を重んじて楽しい懇親の場を持てるように努力したい。
- 温泉供給事業に従事しているが、本学会は幅広い研究発表に加え、大会開催地の視察、地元の方も参加する懇親会、シンポジウムを通して知る温泉地の歴史と発展への取り組みは大変参考になる。
- この学会は,研究者だけではなく、もっと視野の広い自由な雰囲気の中、それでいて社会に貢献する学会にしたいとの話を聞いて、勉強させていただく良い機会と思い、メンバーに加えていただいた。
- もともと温泉の微生物を研究していたが、本学会に加わって温泉の歴史や文化に造詣の深い方や実際に温泉経営の関わる方など、様々な方々と交流ができ、実体験を深めながら温泉を広く総合的に見ることができるようになった。
- 学会発足以来、着実に温泉社会に貢献しながら会が充実してきたことを嬉しく思う。温泉は貴重な資源であり、温泉の利用は素晴らしい文化である。